

教育ボランティア ニュースレター

第15号
発行日 平成26年 11月

基礎看護技術演習Ⅱ 『総合演習』とは

基礎看護技術演習Ⅱは診療過程における看護の役割を理解し、検査、治療を受ける患者の状況と、その看護を学ぶ。また、検査や治療を受ける患者の看護において必要となる基礎的看護技術を習得することを目的に行われています。

『総合演習』は、1年生から学んできた基礎看護技術のまとめの学習であり、9月に行う基礎看護学実習に向けての準備となる学習です。

追悼 辰巳 チヨ子 様

教育ボランティアとしてこの演習に参加して下さいました、辰巳チヨ子様がお逝去されました。辰巳様には長年ボランティアとして学生にたくさんのお話を教えて頂き本当にありがとうございました。

辰巳様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「教育ボランティア」さんは、現在も募集中です。お友達やご近隣の方をお誘いいただき、是非学生の教育にご協力ください。

ご登録希望やお問い合わせは、神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター：古谷（TEL：078-794-8080 代表）までお願いします。

編集・発行

神戸市看護大学

地域連携教育・研究センター

運営委員会

「しんどさ」を前にした患者へのケアは、 看護師として何をすべきか -ボランティアさんの力を借りて-

基礎看護技術演習Ⅱ『総合演習』

6月18日（水）、午前、午後合わせて12名の教育ボランティアさんが参集してくださり、基礎看護技術演習Ⅱの『総合演習』（2年生92名）を行いました。

教育ボランティアさんは肺炎で入院された患者になってくださり、学生は、検温、清拭、足浴、更衣、車いすでの移送などの看護技術を実施させていただきました。学生は、これまでは学生同士での演習をしてきたので、一般の方に援助を実施するのは今回が初めての経験です。教育ボランティアさんの迫真の演技のお陰で、患者さんの「しんどさ」を目の前にしてどのように対応していいのか困ってしまう学生もいました。事前学習と十分な練習をして臨んしんだものの、やはり患者さんの訴えや症状にその都度対応するためには、まだまだ知識や技術が不足していることに気づかされました。また、実際の患者さんからはあまり聞くことができない患者の本音・・・「こんな風にされると患者は気持ち悪い」「こういう話し方では伝わらない」などの厳しいアドバイスもいただきました。この体験は、今後の実習だけではなく、看護師としても将来に活かせるものと思います。

一方で、教育ボランティアさんは「一生懸命にやってくれていた。それが嬉しかった」「誠実さがとても伝わってきたよ」などの感謝の気持ちも言ってくださいました。学生は、こんなに未熟なケアでも喜んでいただけることに「看護っていいな」「看護の道を選んで良かった」と看護する喜びを感じていました。教育ボランティアさんの中には、実際に来週から入院予定の方もおられ、帰りに「学生さんから力をもらいました。」「元気になってまた来年も来ます。」と言って、学生と涙で握手を交わされるシーンも見られました。

このような温かい交流を通して看護を教えてくださいます教育ボランティアさん。本当にありがとうございます。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。



【教育ボランティアさんに参加して頂いた授業の様子】